

各地域における地域学校協働活動の先進事例

【支援から連携・協働に発展した事例】高知県南国市稲生地域学校協働本部 (P.38)

◆活動概要・目的

- ・地域住民の心の拠り所である小学校を核として地域教育力の再構築を行うことを目的に開始。
- ・平成 17 年から PTA 組織から PTCA 組織づくりを開始 (通常の PTA に、C:地域を意味するコミュニティを追加)
- ・平成 28 年から「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」とし、学校支援から地域支援に向けた取組を推進。



地域住民と子供たちでカッパのフィギュアを作成し、地域文化を継承

◆取組の概要・工夫

- ・花育の推進 (花を教材に生命や個性について子供に考えてもらう地域協力型の学校支援活動を展開)
- ・食育の推進 (ストーリーのある活動:「苗の植え付けから収穫、そして食する」全ての段階で地域と協働)
- ・地域文化の継承 (カッパ伝説)
- ・公民館を舞台とした多世代参加型の地区の新たな祭りの創出
- ・学校・地域の合同防災訓練の実施 (授業参観日に実施)
- ・高知大学地域学校協働学部と連携し、学生も活動に参画



玉ねぎ苗植え



玉ねぎ販売

◆取組の効果

- ・平成 21 年には学校の玄関を綺麗にしようと、地域住民、保護者の協力で花壇に種をまくことから始まった「花育」の活動は、2016 年から虫の里づくり事業として、地域全体に「花育の輪」が広がっている。
- ・「食育」を通して PTCA を中心とする学校と地域との協働で学校行事がより地域とのふれあいを大切にしたものとなり、地域活性にもつながっている。



玉ねぎパーティ

【学びによるまちづくり・地域課題解決型学習の事例】奈良県奈良市 富雄中学校区学校支援地域本部 (P.41)

◆活動概要・目的

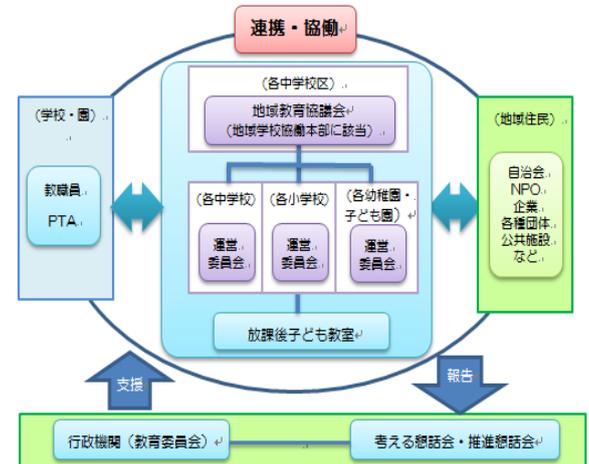
- ・市内全中学校区 (22 校区) に地域教育協議会 (地域学校協働本部に該当) を設置
- ・小中学生が地域資源を見直し、子供と地域の協働による学区ブランドづくり (小学生が栽培した古代米を使ったお団子の商品開発) を実施

◆活動における工夫・ポイント

- ・地域コーディネーターが主体となって、商品化までの子供たちの活動をサポート
- ・地域の連携・協働に参画したい小中学生が集まるボランティア部 (コーディネーターが顧問) の発足
- ・団子の他にワラを使ったしめ縄作り、団子を揚げた際の廃油を使ったエコ石けん作りにまで幅広く発展
- ・お団子の販路拡大に向けて、地域コーディネーターが地域企業に働きかけ、生徒たちがアイデアをプレゼン

◆活動の成果

- ・PTA、自治会、民生委員、社会福祉協議会など既存の子供の支援を行ってきた組織に合わせ、関連部署や企業・団体など地域に支援の輪が広がった。
- ・レストランメニューへの追加やコンビニでの販売も実現し、市長へのプレゼンにより給食にも採用。地域の行事やお祭り、イベント等でも販売。
- ・子供たちの学びの支援はもちろん、企業や団体にとっても地域参画のきっかけ、学びの機会となっており、子供と育つ地域づくり (地域振興) が進んでいる。



【地域のボランティア活動等への参画の事例】 宮崎県都城市 山田中学校支援地域本部 (P.43)

◆活動概要・目的

- ・総合的な学習の時間を活用したキャリア教育へのサポート
【福祉施設訪問、疑似体験活動(車いす体験、職場体験学習)】
- ・生徒がお祭りなど地域の行事へ積極的に参加

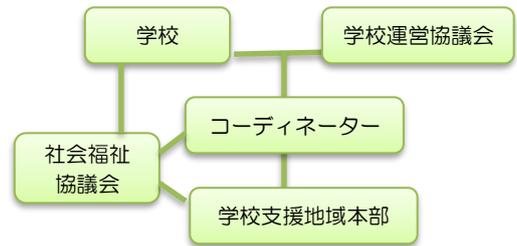
◆活動における工夫・ポイント

- ・社会福祉協会との連携を強めることで、高齢者福祉施設訪問など多くの支援ができるように工夫。
- ・生徒がお祭りなど地域の行事に積極的に参加できるよう、中学校の生徒会担当の教員に行事一覧表、ボランティア活動やボランティア講習会等への参加募集のチラシを提供し、参加者を募集。
- ・PTA 関係者や学校関係者(校務分掌に位置づけ)も参画して、活動内容等を検討。

◆活動の成果

- ・生徒のボランティアや地域貢献への意識が向上し、ボランティアへの参加を多くの生徒が希望するようになった。
- ・生徒総会での全校検討議題で、生徒みんなが参加できるボランティアについて話し合い、朝の清掃ボランティアやあいさつ運動に取り組んでいる。
- ・学校の教育活動の充実
- ・生徒のコミュニケーション能力等の向上や、取組が地域の方々の生きがいに、地域の活性化にも期待。

学校経営ビジョン:「キャリア学習」と「地域貢献」



高齢者福祉施設を訪問している様子



地域の劇団とともに活動している様子

【協働的なプログラムが充実した放課後子供教室の事例】 (P.45)

群馬県沼田市白沢小こどもの広場「結いんぐ」

◆活動概要・目的

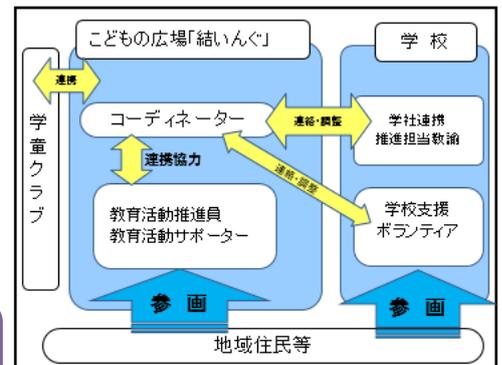
- ・平成 16 年に地域の各種機関・団体と幅広く連携し、支援ボランティアの協力を得て、放課後子供教室として活動を開始。
- ・学校・家庭・地域社会が連携し、地域の子供を地域で育てることを目的とするため、良き伝統「結い」の心を生かし、「結いんぐ」と名付けられた。
- ・「結いんぐ」は学校支援センターの機能も兼ねており、学校と地域を結びつなく役割を果たしている。

◆活動における工夫・ポイント

- ・平日の活動は物作り中心で、休日は、年 4 回ほどそうめん流しなどの親子体験教室を実施し、県の事業を活用した親子体験活動も実施。
- ・「結いんぐ」のコーディネーターが白沢小学校、白沢中学校の学校支援センターコーディネーターも務め、小中学校と連携・協働して充実した学校支援活動を展開している。
- ・「結いんぐ」の活動の関係者が連携して情報交換を行い、子どもたちの様子を伝えたり、学校からの要望などを聞いたりしながら、子ども教室と学校が同一歩調で子どもを育てる環境作りに努めている。

◆活動の成果

- ・学校は地域の協力者や子ども教室の関係者と情報交換の機会を多くもつことで、より良い信頼関係を築いている。
- ・地域の特性を生かした体験活動や地域の人とかかわる機会が増えたことにより、子どもたちに郷土を大切にする気持ちが育ってきている。
- ・異学年同士の交流が多く見られ、小さい子を優先する等、集団でのルールを守りながら活動することで、子どもたちの規範意識が育ってきている。
- ・親子で楽しめる体験活動を毎年工夫して企画・実施し、家庭教育支援の一助となっている。



放課後子ども教室「脳トレ」



親子体験教室「そうめん流し」

【地域未来塾の事例】東京都江戸川区「1655勉強Cafe」(P.46)

◆活動概要<江戸川区「1655勉強Cafe」>

目的：中学・高校生の学習習慣定着と社会性の向上
 対象者：中学1～3年生、高校1～3年生(各会場20名程度)
 実施場所：区内共育プラザ(中高生の活動支援施設)全6館
 実施教科：国語、社会、数学、理科、英語のほか、進路相談
 年間活動日数：約300日(各館週1回曜日別、1館あたり約50日)
 実施時間等：16:55～20:00(火～金)、14:00～16:55(土日)
 実施形態：自習形式
 実施体制等：大学生5名、地域コーディネーター(NPO法人)2名



◆活動における工夫・ポイント

- ・学習支援のノウハウを持ったNPO法人を取り入れた地域未来塾を実施
- ・大学生や生徒同士の交流による社会性と学習意欲向上を重視した「新しい学びの場」
- ・大学生ボランティアは勉強のサポートのほか、進路等身近な相談に乗るなど、生徒との「ななめの関係」により、信頼関係を築いている
- ・中高生の活動支援施設で実施しているため、興味ある様々な活動への参加が可能
- ・部活終了後から参加するなど、他の活動と両立できる



◆活動の成果

- ・高校生が中学生に勉強や学校のことを教えるなど、よい交流の場となっている
- ・大学生が生徒の将来の良きロールモデルになっている
- 参加している生徒の声
- ・勉強だけでなく、学校での悩みもスタッフが一緒に考えてくれ、友達もできて楽しい
- ・年齢が近い大学生だと気軽に質問できる
- ・わからない所を丁寧に教えてくれるので、苦手科目を克服できた



【外部人材等を活用した土曜日等における教育支援活動の事例】(P.47)

東京都大田区ロボット&プログラム教室

◆活動概要・目的

- ・学校の授業以外の多様な主体による教育活動で、地域コーディネーターが企業と連携してロボット&プログラム教室を企画・実施
- ・教室の流れ：導入(身近にあるロボットには何があるかを講義)→ロボットキットの組み立て→プログラミングの練習とプログラム課題(楕円コースに沿って走る)のプログラミング→楕円コースに沿って実際に走らせる。



◆活動における工夫・ポイント

- ・プログラムを作る過程で、論理力と思考力のサイクルを繰り返し、課題解決に導く能力を醸成。
- ・地域コーディネーターはPTA活動経験者であり、PTAとの連携が図られており、保護者の参画が円滑に推進されている。

◆活動の成果

- ・教員の感想「子供の創造性を伸ばす興味深い内容。子供たちが自らチャレンジし、目が輝いていた。」「企業との連携により学校教育では難しいことができる内容となっている。」
- ・子供たちの感想「どのように組み合わせるかでプログラムが変わるので難しかったが、だんだんとわかるようになり楽しかった」



【高等学校における地域との連携・協働の取組の事例】(P.50)

岐阜県可児市 NPO 法人縁塾、可児市議会、可児市諸団体、岐阜県立可児高等学校

◆活動の概要

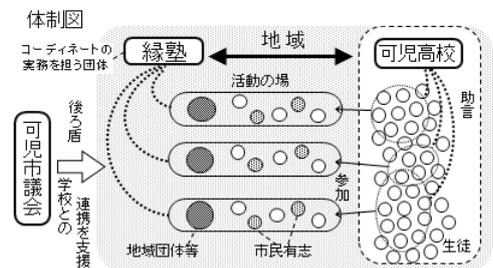
- 可児高校が地元有志に「学力向上・キャリア保障・地域再生を一体的に展開しよう」と「地域課題解決型キャリア教育」を持ちかけて開始。
- 地域をよくしようと活動する団体等の大人や大学生と交流したり、地域課題を解決するプロジェクトを一緒に進めたりする活動を通して、学習意欲や地元の将来への当事者意識を高める高校生が現れている。

◆活動における工夫・ポイント

- キャリア教育の一部を地域に委ねることで、いっそう充実した教科指導や受験指導を実現できる余地が拡大しつつある。
- 人事異動の影響がないようコーディネートに実務を担う組織として「縁塾」を設立。
- 社会教育と高校教育がハイブリッドで機能する仕組み、高校と地域の互恵関係、地域主体の運営体制を築いた点に、大きな特徴がある。

◆活動の成果

- 縁塾の熱心な働きかけにより、平成 27 年夏、地域で頑張る大人や大学生を講師とする 71 のプログラムが実現。可児高校 1 年生全員が何らかに参加し、地域との距離を縮めた。翌 28 年夏には 35 のプログラムを開催し、2 年間で延べ 800 名が参加した。
- 秋以後、活動意欲を高めた生徒は関係団体に分散して 11 のプロジェクトを企画。翌春の活動には延べ 100 名以上が参加した。
- 地域は高校生を受け入れることにより、大学卒業後に地元へ帰ってくる若者を確保できる手厚さを強めている。



【特別支援学校の事例】東京都立あきる野学園 放課後子供教室 「チームあきる野」(P.51)

◆活動の概要

- 都立あきる野学園(特別支援学校)のPTA主催で始まった「あきるのクラブ」は、学校、地域、企業と連携し、「チームあきる野」として放課後子供教室を委託運営
- 年間11回の多様なプログラム(ダンス教室、太鼓教室、親子でハイキング、映画館で映画鑑賞会等)を実施

◆活動における工夫・ポイント

- 開かれた活動であり、在学学生、卒業生、特別支援学級の子供たち、学区の重なる特別支援学校の子供たち、近隣の小中学校など障害種別、障害の有無に関係なく参加できる。
- 複数のプログラムから好きなコースを選択できる。
- 社会福祉協議会、地域サークルやシルバー人材センター、地域のボランティアセンター等との連携により地域住民の参加を促進
- 近隣の小中学校、高等学校ともダンス教室やクリスマス会などで交流
- 地域の企業との連携(電機会社のCSR部の社員が学校運営協議会の委員であったという縁から連携につながった)

◆活動の成果

- 子供たちからはいろんな体験ができて、いろんな人に会える、あきるのクラブをきっかけにダンスのサークルに入ったなどの声が届いている。
- 教員や保護者にとっては、子供たちの新たな一面を見ることができ、保護者も支援者として成長することができる。
- 地域や企業の方の参加を得ることで、障害のある子や特別支援学校への理解・啓発につながる。



太鼓教室(地域の太鼓サークルと連携)



映画館へレッツゴー!